

一二本録のひびく響る百舌の用心は一々張るに竹藪の
 垣までも樹木までも千紵りたるよりあへて出に
 心持して張るにひびく一音のひびくはさへも総て心あて
 なくやいぢや束はともたを去るに驚け呼るハトあきり筆
 鳴としてハ重なりハ大なるぬる多ければ始末の勢ひ
 はなをぐさあかすべし又野をを始め来る鳥もこれ
 かれハ一息の音をえて降りてハ再び来るぬる多し
 いゆハ空初し物ひひくはなを所さぬあはするゆへに子も